小峰三千 青

-男君 男 君

作 作 Ж 詇

īF.

雪<sup>ゅき</sup>解げ 浅緑とり 生ののな 0 の なる若草の 野の争り 関数は 辺に萠え出でし ĥ じと

若き力のよろこびは 伸展ゆく生命思ふときのび

我等が胸に溢るなり

ば

寂賞 曠野 眺が

く 暮 パに凋落

る

る手稲山

の秋更け

今は小暗 **盧生の夢となすなか** うつろひやすき若き日を 黒百合咲けど春 られ下閣 にんした 格 Ü づ

悲哀誘ふ 声を聞きつつ逍遙 郭敖 公言 0

め

四

はてなき石

狩り 0 Ć

今う の跡と ) ぞ 馳 すれ の夕まぐれ する北欧州 ゆ ゆく赤陽に

れ

牧\*\* 場ば げ がば 高たか のに虫むし ゴの音は L 秋の空 口も淡ま

音も淋漓

小く 風膚 に

しみ

雄ラこん 崇き理想を胸にして たか りそう むね 肥の馬ば 生くる喜悦謳ふ哉 原頭 の 気き はあふれつつ に 嘶きて

> 寒月高く 大雪原は

済は

のゆる夜半

に消ゆるとき しく行く橇

哀愁をこ 瞑想ぞ如何に深からん む る若人の

先人建て 精神を磨い 尚き生命に生きなんと し自治寮の く友どちよ